

9月27日（金）、南会津町南郷総合センターを会場に、「福島県小・中学校教育課程研究協議会」を開催しました。各校から24名の先生方及び各町村教育委員会の担当者の方々に参加していただき、伝達・講義・情報交換・分科会・演習等を通して、学習指導要領に基づく教育課程の実施の趣旨や内容をお伝えしました。また、各分科会では、担当者から具体的な編成の仕方やポイントについての確認を行い、学習指導要領の円滑な実施に向け、以下の内容を協議、伝達しましたので、ご確認ください。

## ～複式学級における教育課程編成～



「教育課程をどのように編成していけば教育効果が高まるのか？」等、事前にいただいた質問をもとに、先行事例や各校の実践を参考にしながら、教科担任制や日課表の工夫について協議しました。

業務負担が複式学級の担任に偏らないようにするための持ち時数の調整等、主に指導体制の工夫について様々なアイデアを出し合い、教育課程編成に直結する具体的な話し合いをすることができました。

## ～参加者の感想～

- 「持続可能な教育課程」という視点を大切にしていきたい。
- 先生方それぞれの持ち味を生かして、教科担任制について検討していきたい。
- これまでのかたちにとらわれず、教育効果の高まる日課表や時間割について考えていきたい。

## ～特別支援学級・通級指導における教育課程編成～

特別支援学級において実施する特別の教育課程を作成する上で大切なことについて先生方と確認しました。大切なことは以下の2点になります。

- ・ 自立活動を取り入れること。
- ・ 各教科の目標や内容を下学年の目標や内容に替える、各教科を知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えることができること。

なお、「令和7年度特別支援学級及び通級による指導教育課程編成の手引き」も協議会後に配付されましたので、ご確認ください。



## ～参加者の感想～

- 子供の実態に応じて教育課程を編成していきたい。
- 多くの視点から個別の支援計画の作成や教育課程の編成が必要になってくると感じた。
- 自立活動は各教科の補充ではないので、全教職員で実態を把握するように周知していきたい。

## ～ICTの活用を促す教育計画と授業づくり～



「ICT活用に対する必要感」に関する全国学力・学習状況調査の分析と協議、ICTの活用や研修についての事例紹介、域内各学校の教育課程の紹介などを行いました。

ICT活用の頻度や活用場面と学力との相関を分析することで、ツールとして意図的に使うこと、効果的な使い方を模索していくこと、それらを教育課程に位置付けていくことの大切さを確認しました。

ICT活用を全体計画だけでなく、各学年の単元計画にも位置付けている学校が増えてきています。今後もICTの効果的な活用につながる教育課程の編成をお願いします。

### ～参加者の感想～

- 活用の方法、場面の選択が必要とわかった。効果的、効率的な使い方について考えていきたい。
- 先生方のスキルをチェックして、実態に合わせた研修ができればと思う。
- ICT活用が生徒の学力向上や教職員の業務縮減に結び付くことを具体的に校内で示していきたい。

## ～キャリア教育の充実に向けた教育課程編成～

キャリア教育を通して育成することが期待される基礎的・汎用的能力を構成する4つの能力について確認しました。

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| ① 人間関係形成・社会形成能力 | ② 自己理解・自己管理能力  |
| ③ 課題対応能力        | ④ キャリアプランニング能力 |

また、キャリア教育は特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて行うこと、職場体験・職業体験だけがキャリア教育ではないことを確認するとともに、さらには義務教育課ホームページに掲載されている「キャリア教育モデル校実践報告」やソーシャルスキル・トレーニングの動画も紹介しました。

最後に、小学校・中学校のキャリア・パスポートの活用方法について共有しました。

小学校・中学校の9年間のつながりを意識したキャリア・パスポートになるための取組を通じて、自校の課題と次年度以降の取組について確認しましたので、計画的な活用をお願いします。



### ～参加者の感想～

- キャリア・パスポートを小学校でしっかり作成し、中学校へ引継ぎをしていきたい。
- キャリア・パスポートについて、我々職員の認識の低さを感じました。
- 自校の教育計画をもう一度じっくり見直したいと思います。

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるように努めなければなりません。今後の編成に向け、ご確認ください。

